

第3回富山親学フォーラム

日時：平成16年11月7日(日)午後15:50~17:20

会場：富山第一ホテル 若草の間

ワークショップ「ころあるところに宝あり」～手嶋郁郎氏の教え～

(株)イエローハット取締役相談役 鍵山秀三郎氏

(進行役)

本日は30名という定員だったのですが、受付しておりましてやはり鍵山先生のファンの方が大変多くていらっちゃって、急遽この50名のお部屋の取り直しをいたしまして、ワークショップをさせていただくことになりました。

今日は鍵山先生からまず始めに10分ほどお話をいただいて、その後ビデオを流しながら先生のお話をいただきたいと思っております。

そして今日はぜひ先生とお話したいと、意見交換をしたいというご希望の方が本当たくさんいらっしゃいました。先生も皆さんのご質問をどんどん受けたいと、そのようにおしゃっていただいておりますので、意見交換の場にさせていただければと思います。それでは時間は短いと思えますけれども、始めたいと思えます。先生よろしく願いいたします。

(鍵山) みなさん、こんにちは。今日は日曜日ですね、貴重なお時間を割いて、おもしろくもおかしくもない話にお越しいただいてありがとうございます。私は一貫して心の在り方というものを大事にして参りましてね、心の在り方によって同じことでも全然とり方が違う、受け取り方が違うということを今までずいぶん体験をして参りました。

今日みなさん方に冒頭にですね、その良い例を高校生の話でご紹介をしたいと思うんですけども、これは高校生の弁論大会で優秀な成績をとった女性徒の弁論大会での要旨をですね綴ったものでございます。ですから本当は話はもっと長いんですけども要旨だけをお伝えをいたします。

…………… 弁論大会の要旨…朗読……………

待ちに待った修学旅行が目前に迫りました。旅費は母が内職しながら工面してくれました。服も靴もその他の用意もすっかり整ってうれしさに浸っていました。ところが旅行の前日になって、私の気持ちは喜びから悲しみへ急に変わったのです。いつもの様に私たちは学校で旅行のことを楽しく話し合っていました。「私ね、お父さんにすばらしい旅行鞆買ってもらったの」「あら、そう」「どんな色?」「明るいグリーンだわ」「2千円だって」「へー私のは赤いのよ」「私は今日買ってもらうんだけど」「木村さんはどんな鞆?」私は返事ができませんでした。私の旅行鞆はそれは3年前に亡くなった父の残した所々ひび割れている男物の古ぼけた黒い鞆でした。その時まで鞆のことは少しも気にかけていなかった私は急に目の前が真っ暗になった様な気がしました。

その晩私は母にねだりました。うるさいほど必死になって新しい鞆を買ってくれとせがみ

ました。でも母は「お金がない」「辛抱しなさい」の一点張りでした。私は母を恨みました。たった1人の娘が修学旅行に行くのに。「お母さんのバカ、バカ」そう叫ぶと私は寢床へ飛び込んで、布団を頭からかぶりました。「あー、お金持ちの子供に生まれたい」涙が止めどもなく流れました。

ついにその日が来ました、あれほど楽しみにしていた修学旅行。それが古ぼけた鞆のために何と呪わしいものを感じられたことでしょう。私は「気をつけてね」と言いながら見送る母を振り向きもせず、重い足を引きずりながら駅へ向かいました。友達はまだみんな来ていました。たくさんの視線が私の鞆に集まっている様な気がして、私はいてもたってもいられない気持ちでした。私は友達が話しかけても上の空の返事をしながらみんなの鞆を眺めまわしました。どれもこれも立派な新しい鞆、色とりどりのまるで花園の様です。それに引き換え、私の鞆がどんなにみすぼらしく見えたことでしょう。ああ、いっそのこと何も持たないで来た方が良かったと思いました。

私は重苦しい気持ちで車中の人となりました。みんな楽しそうに親たちと別れの挨拶をしています。私の母は来ませんでした。私は母が来なければ良いと思いつけていました。母なんか見たくなかったのです。列車が動き出すと早速みんなおしゃべりやゲームをやり始めとても楽しそうです。私は鞆をみんなに見えない様に手で隠しながら黙って座っていました。そんな修学旅行を何年も楽しみにしていた自分が馬鹿らしく思われました。

木村さん、お菓子食べようよ、と山岸さんの明るい声にはっと我に返りました。

私は少しも欲しくありませんでしたが、食べないと余計に変に思われるので仕方なく鞆を開けて飴玉を取り出そうとしました。すると鞆の中に封筒が、1枚入っています。表書きに「よしこさんへ 母より」とあります。私はいぶかりながら封を切りました。中には手紙が入っていました。「よしこさんあなたにはお母さんは心からすまなく思っています。あなたがどんなにか新しい鞆を買ってあげたかったことでしょう、でもどうにもならなかったのです。お母さんは一生懸命努力したけど、どうにも出来なかったのです。お母さんにはあなたの気持ちが良く分かります、だから心からお詫びします。あなたが辛いだろうと思うので駅には見送りには行きません、家の窓から電車が通るのを見送りたいと思います。同封の200円はお小遣いの足しにしてください。お母さんはこれだけが精一杯です。お母さんもあなた以上に悲しいのです、辛いのです、けど我慢します。あなたも我慢してください。体に気をつけて楽しい修学旅行でありますように祈っています。お土産話を楽しみにしています、では元気でいってらっしゃい」

私は急に涙がこみ上げて来ました。封筒の中にはお金が200円入っていました。私は大声をあげて泣きたくなりました。お母さんいいのよ、私こそごめんなさい、わがままばかり言って。今までの辛さも悲しさも吹っ飛んでしまいました。何というありがたい母の心、何という深い母の愛情でしょう。お母さん、よしこは古ぼけた鞆で十分です。この鞆の中には何よりも尊いお母さんの愛情が入っているのです。私は堂々とこの鞆を振って歩きます。お母さんありがとう。私は泣きながら飴玉をしゃぶりました。そして心の底まで明る

くなりました。

……………朗読おわり……………

弁論大会で優秀な成績をとったんですね、この高校生の話で、冒頭に申し上げました様に同じですね、鞆が新しくなったわけではないのに、心の持ち方によってですね、この古ぼけた鞆が呪わしいものであったものが、急にですね、そのすばらしい鞆に思えて来るというですね、これが心の有難さですね、そのことをクリスチャンである手嶋郁郎先生はですね、終生を通して「心あるところに宝あり」ということを言い続けられました。逆に言えばどんな財産に恵まれて困まれている、心が無ければ、そうですね、それは何にも無いのと同じであると、そういうですね、ものでございますということでもまずですね、温かい心、深い心、広い心、そういうものを持ちたいと思うんですね。ただ最近世の中はですね、どうもそのそういうことを疎かにしてしまって表面的な、上っ面のことばかりになりました。何故そうなったかと言うといきなり何か大きいことをやってですね、人から褒められたいです、それから注目されたい、認められたいという気持ちが先に立ってしまって大きいことですね、その捜し求めている人がたくさんになりました。

ところが大きいことなんていうのは滅多にないですし、またあったとしても誰でも出来ることではないですね。でその大きいことを求め歩くですね、その心が結果的にどういう風になっていくかということ、人間はいつの間にか深く考えることをせずに、形式的になりますね。そしてまあ、これで良いんじゃないかというですね 便宜主義ですね、形式主義、便宜主義にしてさらに個人主義とこういう風になっていく。国家のことより我が町のこと我がわが町のことより我が家のこと、我が家の中でも自分だけという風にですね、今の日本は残念ながらそういう傾向になってしまいましたね。でそれがですね、今の社会をどんどん荒してそして犯罪も増やしてですね、世の中が騒然としてきた元でございます。で私は物事をですね、何かやるにしても考えるにしても感じるにしてももっと深めなければいけない。じゃあ深めるためにはどうしたら 良いかということをおちょっとご説明をさせていただきます。

知識を得る、何かを知るという働きはですね、これは頭の働きですね…頭の働き。それから何かを行うというのはですね、これは体の働きです。いわば物事を感じると言いますね…感じる、これは心の働きです。しかしただ頭だけで知ろうとするから浅くなる、心を伴わず、心を伴ってそして物事を深く知ることになると、それは実に深みがあるんですね、増して来ますね。それからただ行う、体で行うだけではなしに頭を使ってですね、行った時にそれは初めてその働きに意義がわいて、付いて参りますね。

じゃあ感じる、心で感ずるんですけど、ただ心で感ずることは出来ません。どうしたら感じられるか、体で感じるんですよ。体を通して自分の手・足・体を通して、寒いなどが暑いなどがですね、冷たいなどがですね、そういう風に自分の手・足・体を通して感じていった時にその感じはですね、非常に深まるわけですね。

でここでみなさんに知っていただきたいのは、知る・行う・感じるというそういうですね

重要なこともただ頭・体・心だけではなしに、知ることに心を伴うそして頭を使う。体を通して心が感じる、こういう風になった時にはそれは非常にですね、大きな意義を持ってくると私は思いますね。私は多くを知ろうとは思いませんけど、知るならば心を伴って真から知りたいと思いますし、そうなるそうですね、不思議なことが起きるんです。そういえば私は中国のですね、歴史の本を読むのがとてもどういうわけだか好きになりまして、この5～6年ですね、中国の歴史のことを書いた本をとてよく読むようになりました。そうしますと中国の本の中にはですね、日頃聞き慣れない名前がもう次から次へと出てくるんですね。『十八史略』という本の中にはですね、4,600 数十人という人がですね、登場するわけですし、年代もずっとですね、いす。ですからなかなかこんな 70 を超えた私の記憶力では普通は覚えられないですね。

ところがですね、「ああそうか、この時代こうだったのか」「この時代の人は大変だったな」とですね、「こんなことするとこんな人生になるのか」という風に自分の心を伴って知ろうとするとですね、不思議なほどですね次から次へと登場してくる人物との関連がですね、ちゃあんと分かってくる。私の家内がですね、よく本は読むほうなんですけど、中国の本だけはいやだと言うんですよね。もう同じ様な名前がたくさん出て来て、どれが何だかですね分かんなくなるから嫌だって言うんですけど、私はですねそれが分かる。それは何故か。ただ頭で知ろう、覚えようと思っただけではなしに心を伴って、自分で感動しながら読んでいくからですね、そういうことが分かるわけでございます。でさらに私は掃除という行いにしてもですね、ただほうきを使わないですよ。その日の天候に合わせて、あいはその日の落ち葉や何かに合わせて道具を使い分ける。道具の使い方も分ける、手も使うしですね、という風にやるとですね、同じ掃除でもとても意義が高まって参りますね。実際何かを感じずる時にはただ心で「ああ感じました」ではなしに、本当に自分の手・足・体を通して芯から感じて、そうしますと自分のですね、身にしっかりついて来るわけでございます。ですからこういうことを出来れば多くの方にお伝えして、そしてそういう生き方をしていただきたい、また次の世代にもですね、そういう風に伝えてっていただきたい、こういう願いを持っております。

そこで今日はですね、私も何度か見ていただいた方もいらっしゃるんですけども初めての方もいらっしゃるんで 12～3 分ですね V T R を、うちの会社が掃除ということでどんなことをやっているかですね、ちょっと掃除だけではないんですけども...少し見ていただきたいと思います。もう 13～4 年前にですね、あっちこっちでバラバラ撮ってそれを繋いでおりますので、お見苦しいんですけども、話だけよりも分かっていたらと思いますね。

..... V T R スタート.....

私共の社は昭和 51 年から 25 年間大田区北洗足という所に本社がありまして、今は目黒区青葉台という所に引越しをしましたが。この駐車場の一角にですね、ご覧の様に掃除道具、これは道路掃除ですねするための道具です。外の掃除をするための道具がこうやって誰でも見える所にこうして置いてあるんですね。でここへ来ると道具は探さなくてもすぐ

にですね、必要な道具がありますし、また使ったら必ず元へ戻すように仕組みが出来ております。ですから誰かが使ってどこかへ持っていっちゃうということはないんですね。必ずここに戻るようになっていましてですね。で社員が来ますとご覧の様に住民の人が捨てたごみを1回どけて、そしてそこを汚い所をあーやって洗って、あれはお寿司屋さんの前なんですけども、魚の汁がですね、もうだあーっと道路に溢れるんですね、いつもうちの社員があーやってそれをどけてですね、洗っておくんですね。で25年間もお世話になった東急の駅。ずっと、自動改札になる前は改札の中まで入ってですね、うちの社員が25年間掃除してきました。自動改札になってからは中へ入れませんので、改札から外だけでしたけど。だからあーいう排水溝の中ですね、今私共は東京都の副知事のお声がかりで新宿の掃除をしておりますけど、ものすごい汚いですよ、あそこはですね。ホームレスの人の便所ですから。ああ臭いし汚いし、全部蓋取って中ですね、汚いごみをさらえて、きれいにするんですね。

で道路に張り付いているチューインガムもはがしてですね、それはそれはもう見事なきれいな街に生き返らせるんです。付近の人が捨てたごみを空けてどけて、空けてそれで整理をしてきちっと元に戻しますから回収車ですね、都の回収車が来てあの袋を取ってった後は本当にきれいですよ。普通は袋を持ってた後はごみだらけですよ。うちの付近はですね、実にきれいになってる。それだけではなしにこのごみの中から新聞雑誌、ダンボール・ビン・缶そういう資源になりそうなものをですね、本当は捨ててはいけないものをみんな一緒に捨てるもんですから、うちであーやって、よって出して、よけといてうちの車を出してですね、その回収をするんですね。普通の日で2台、間違いなく2台はありました。毎日多い日は6台も7台もですね、集めるくらいあったんです。それを持ってきてですね、それを分解して、きちっと整理をし直してですね、新聞は新聞ちらしも避けてですね、でダンボールも2種類に分けて、ダンボールはご覧の様にいろんな形のダンボールを木の枠に入れていっぱいになるとあれを外してですね、それで縛る。そうしますと山の様になっていた紙がぴたーとですね、収まりますね。でこれを保管すると1週間でトラック1杯ですね、集まる。いかにうちの会社のごみを減らして、資源化してきたかということが分かっていただけだと思いますね、今でもやっていますけれども。時々ですね、すぐうち...今本社の近所の会社で、あ、これは掃除道具は必ず洗って元へ戻し、汚いまま絶対元に戻しません。必ず洗ってきれいにですね。

ごみの中から集めてきたビン・缶はとっても汚いですから洗って、水を切ってそして缶つぶし機でつぶして容積を体積を小さくしてですね、1週間分集めて回収日に出すんですね。そうじゃないとものすごい量になってしまいます。だから会社から出たごみは非常に少ないですけども、もう1回点検をしてですね出します。ごみの袋は付近の住民の人のごみを整理するとあーいう袋が空くもんですから、あの袋を洗って干して再利用するんですね。ごみの袋もごみですからね、なるべくうちはごみを出さないという考え方でこうやってですね。それからこれは何を映しているかといううちの会社は社員が帰った後、机の上を

見てください。紙1枚置いてないでしょう、ね。昔はですね何でも山盛りに置いてあったんですけども、今はこういう会社になったんですね。

次はトイレ掃除で、今日ここに...目の前に石倉さんがお越しになってね「滑川掃除に学会」で掃除をやってください。あ藤本さん。小矢部ですね「掃除の会」を毎月やってください。そういう全国に広まった会ですね、基になったのが私がこつこつとやってきたこのトイレ掃除ですね。随分長い間誰からも理解されないですね、本当に人から馬鹿にされて嘲笑されながら私は続けてきた。そうしましたら今日本中に広まって、海外はブラジルですね、来年の9月日本から100人以上行ってサンパウロのですね、パウリスター大通りという所で1万人大会、世界大会を開くということが決まっております。ご覧の様に下に手をつけてですね、昨日も岐阜県美濃加茂の双葉中学校という所でやってきましたけども、生徒達がですね、ちゃんと教えるとああやって下に手ついて、便器につかまってですね、中汚い便器を掃除しましたね。全然嫌がりません。昔私がああやって便器の横をああやって掃除していると、あの横に立って平気で用足しをしている社員はいたんですね。本当ですよ。私がああやって横をやったのにですね、あそこで平気で用足しをして、随分私にはしづきもかかっていると思うんですが。本当にそういう社員がいた...いたというかそんな社員ばかりだったんですよ、昔はですね。今はそんな者はおりませんが、いずれ礼儀正しい社員にしようと思っただけですね、どんなことがあっても私はやり続けてきたんですね。普通の会社なら1年に1回やるかどうか分からないぐらい丁寧な掃除を私は毎日ですね、きれいでも、元々きれいでもそれをさらにまたですね磨き上げるという風にやり続けてきた、そうしましたら30年を過ぎた頃からですね、外から掃除のやり方を教えて欲しいという風に言われてこられて、それが平成5年に岐阜県明智町という小さな町で小さな活動として始まって、それが今11年経った今日ですね、日本中に広がって海外にまでですねこの運動が広まってきたんです。

昨日もその美濃加茂中学ですね、その前の日は大森高等学校、東京のですね。その1日おいて前の日3日は園芸高校というふうな、もうしょっちゅう私は、方々の学校に行っただけですねトイレ掃除をやっております。だから今までに350何校かですの学校、全国で掃除をしてきておりますね。

うちはきれいですからどこ触っても汚くないんですけども、本当に昨日も汚れてましたね、それをきれいに洗って...で最後はあれ、沸騰したお湯につけてきれいにするんです。平成5年11月にですね、これをやった時に、あまりにも汚かったものがきれいになって皆が感動して、あれで皆でビールを飲んだっていうんですね。そういうことが起きたんですね。普通考えられないでしょう、でも本当の話です。私たちが今ですね、この掃除の会が終わった後、昼食をとるんですけど、昼食をしながらの話題がどういふ話題であると思いませんか？今日のトイレが如何に汚かったかという話をしながらですね、みんなが昼食をとるんですから普通だったら考えられない。でも今日高橋先生がおっしゃった感動するっていうのはそのくらい大きな力を持っているんですよ。人間感動できない人は何にも出来ない

ですね。臆病になります。感動できる人がですね、勇気が湧いてきて新しい事に挑戦できるんです。こんなきれいなトイレでもですね、1回にかかる時間は40から45分ですね。よく人からですね、「そんなことしてるから売上が上がらないんで、こんな事止めればもっとイエローハットという会社は売上が上がるじゃないか」と、まあこういう風によく言われますね。今でも言う人が多いです。でも私は「いいです。うちの会社はこういうことをきちっとして、社会全体、日本の国全体にごみ1つ落ちていない、そういう国にするまで頑張るんだ」といってやっているわけでございます。

次は洗車で、今300数十台の車が北海道から沖縄までですね、1年365日1日も休むことなく、どっかで動いておりますけども。この車を会社から出る時は必ずきれいにしてくださいね、汚れた車では出かけていけないですね。まあこれからもうちょっと経ちますと札幌の営業所なんかはですね、もう車が凍りますよ。手がやっと入るぐらいの熱いお湯で洗っててもですね、そのお湯が凍ってしまうというんですね。それでも洗うんですね。皆でよってたかってこうやってですね、その1台の車をきれいにしていきます。これは3月ですけど、3月でさえこれですね、お湯が凍ってですねいくぐらい寒いんです。だから1~2月は雪の中に車がうまっちゃっていることもよくあります。それでも朝雪の中から車を掘り出して、そして洗うんですね。でどうせ洗ってもすぐ汚れるんですけどもそれでも洗う、何故かと言えば、お客様をこれから訪問する時に汚い車に乗って会社を出かける様ではですね、心構えがもうきちっと出来ないということで、心構えをきちっとするためにはまず車をきれいに洗って出かけるということはずっと続けてきました。

次はホテルの方で、これは掃除とは全く関係がないんですけど、私は1年に200日以上、方々ですねホテルに泊まる。部屋借りて、昨日は名古屋、今日は富山ですね。明日は帰りますけど、もう明後日は札幌ですね、という風にその200日以上、方々泊まるんです。ホテル行きますとあんなガウンがあったりですね、何でも揃っていますね、洗面台には色々な物あるけども、今日も私は鞆の中に洗面道具を持っておりまして、ホテルにおいてある物は普通サイズですね、バスタオルも私は使わないですね、普通サイズのタオルを1本と足元のバスマットを使うだけですね。ですから1晩泊まって右側の普通サイズのタオルと足元のバスマットだけ、あとは何も使わないですね。洗面道具も水がはねない所にどけておいてですね、朝出かける時にまた元の位置にきちっと戻してですね、出かけるようにしているのですね。枕・浴衣は使いませんのでこの枕・浴衣は使っていないという、同じ部屋を2泊3泊続けて使う時は、今日もこの部屋を使うから何も交換しなくて良い、掃除もしなくて良いということですね、書いてドアに貼り付けてですね、挟んで出かけるようにしているんです。

はい、ありがとうございました、これで止めてください。

..... V T R ストップ.....

ホテルの料金の中にはですね、洗面道具の代金も何も全部入ってますから、私は何も持たずに行ってもですね、良いんですね。でホテルにおいてある物を全部使っても誰も文句言

わないですね。でも私は自分が使わなければそれだけ資源が活かされて、そしてごみが出ないですよ。私が行った先々で置いてある物を使えばですね、全部資源が無駄になって、そしてその度にごみが出ますね。200日分の石鹸かみそりですね、そういう物を貯めてみたら相当な量になるんですよ。それを私が自分で持っている物をですね使えばごみは出ないし、資源は無駄にならないんですね。

パリやロンドンのホテル行きますとね、それはもう魅力ある石鹸ですね、見事な石鹸がおいてあったりするんですね。それはもういくつもおいてあるんですね。それでも私は使いません。もちろん持って帰るなんてことはしないですよ。使わないから持って帰ろうなんていうことは私はしないんですね。という考え方です。もしか日本中の人たちがそう考え方で毎日の生活を送るようになればですね、この国はどんどん良くなってですね、政府が何十兆円なんていう国債を発行したりですね、何かしなくても済む国になると私は信じてですね、それを「何でもやってもらわなきゃ損だ」ですね、私はこの掃除を通して消防署・警察の方々にですね、いろいろ縁があります。それから役所の方、聞いてみるとですね、今目黒区という所に私は住んでいるんですけども、先般の目黒区の消防署の署長さんにお話を伺うとですね、いわゆる知識人と称する人たちほどですね、わがままなことを言うてくるといいますよね。自分の家の雨どいにですね、落ち葉が詰まったのまで消防署を呼んでですね、きれいにしろって言ってですね。いや本当にそうなんです。消防署に置いてある救急車をですね、タクシー代わりにその使うとかですね。それでそれを断るとですね、人命をですね、無視したと言って攻撃的な記事を書いたりするんで、もう受けざるを得ないんですね。で救急車 119 番で呼ばれて行ってみるとですね、どっかへ出かける支度をして待っていてですね、それで目黒区から葛飾の方の病院へ連れて行って言ってですね、「いや、これは規則でその決められた病院しか行かれませんか」と言うのと、またそこで「人命をですね、無視するのか」と言われるんですね。それでそのまあ、しょうがない、そこまで行こうとすると「サイレン鳴らすな」と言ってですね、救急車っていうのはサイレン鳴らさずに走ってはいけないんですね。それをサイレンを鳴らすなと言ったりですね、そういう人がものすごく増えたといって嘆いていました。そんな人がいるから行政負担は高まってですね、そしてこの世の中が悪くなっていくんだと私は思います。私は少なくとも自分で出来ることですね、本来だったら行政にお願いしても良いことでも、さっきの道路の排水溝のつまりまでですね、私はああそのちゃんとしますし、昨日も行った学校でですね、手洗う所の洗面台の水の流れが悪くて詰まってました。でそれをですね、この水の流れを通して良くしましたね。これだって放っとけばですね業者が来てですね、そしてお金をかけて直さなければ直らないですね。私は少々の事は直せる様になりましたから、私が行くと詰まってるトイレや洗面台を直すのは、私の係りみたいになっているんですね。でも詰まっているから良いんで、詰まってないとつまらないですよ。これはですね。まあそういう風にして参りました。ということで長々と随分時間をとってしまいましたけども、そういう生き方をして参りましたし、これからもそういう生き方を貫いていこうと思いま

す。また一人でも私の考え方に共鳴をしてくださる方がですね、増える度にこの国は良くなると思うんですね。私の考えは、私の様な人間が増えた時に世の中良くなるんだったら私は生きている甲斐があり、私の様な人間が増えたら世の中が悪くなるんなら私はですね、生きている意味がないんですね。私と同じような生き方をする人が増える度に世の中が良くなるんだとしたら、私は日本人として日本に生きているんですね、意義があるとそのように思っております。そして皆さん方にはですね、真の意味で、本当の意味で、頭の良い人になってもらいたいですね。それは何もですね知識をたくさん持つとかですね、いろんな事を知っているという意味の頭の良い悪いじゃないです。良い事を考える人が頭の良い人です。どんなですね、立派な大学を卒業してどんな地位にあっても、悪い事を考える人は私は、それは頭の悪い人だとですね。頭の良い人が悪い事を考えるわけではないわけですから、本当の意味で頭の良い人になっていただきたいと思うんですね。まあこの処、新聞ですね、まあいろんな今まで虚偽の報告をしてきたとかですね、何とかという事が本当にずうっと、やってる人は皆ですね有名な大学を出て、しかるべき地位にある人ばかりですよ。そういう事してるのは。私の様に田舎の高等学校を百姓をしながらですね、百姓の忙しい時は学校は行かれないですね。もちろん試験勉強も何もですねしたことが無い、それでも悪い事を考えなければですね、私は頭の良い人だと自分で自認をしております。どうか本当の意味で、頭の良い人になっていただきたいと思います。それではこれから皆さんのご質問をいただいでですね。

(進行役) 私共、浦山学園でも先生のこのお考えに共鳴いたしまして「便強会」ということで掃除をしております。素手で掃除道具からご指導いただきまして「便強会」便器の「便」ですけども、それで掃除をしております。初めは「えっー、何か嫌だな」という感じでやはり皆さん取り組むわけなんです、やればやるほどどんどん一生懸命になっていってですね、そして本当にやり終えた後に本当にすがすがしいというのが教員・教職員・生徒皆から声をもらっています。本当にお蔭様でと思っております。

小杉町の付近の溝掃除、そういうものも学生達と一緒にやっております。私たちも少しずつこうやって広めて、先生のお考えを広めて行きたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今日は名札をお付けいただいております。ぜひここで皆さんお集まりいただいた方それぞれ同じ気持ちで集まっていたいただいていると思いますので、お名前をおっしゃっていただいでから、ご質問の方をしていただけますでしょうか。では、どうぞ。お手を、挙手いただけますか。はい。

(質問者・A) Aと申します。今日はすばらしいお話をありがとうございます。掃除ということなんですが、それをこう...やられましてね、その従業員の皆さんがどのように変わられてですね、そしてその事業にどう影響を及ぼしたかということをやっと具体的に

お話いただけませんか。はい。

(鍵山) 私共の協会はですね、元々自動車関連の仕事というのは、この中にいらっしゃればお分かりだと思うんですけど非常に荒っぽいですね、粗暴粗野という言葉が良く当てはまる業界なんですね。特にまあ最近はだんだん落ち着いて来ましたが、昔は私ですね、この業界に最初に入ったのは昭和 28 年ですね、まあその頃はですね私はとんでもない仕事に就いちゃったと思ったくらいです。それはどういうことか、私が勤めた会社は『デトロイト商会』という会社にお世話になったんですけど、先輩がですね、電話取るとですね、「はい、デトロイト」って言ってですね、お客様からこういう物ないか？って、まあ訊く方も訊き方がですね、「こういうものないか？」みたいなですね、「あはないよ、そんなん、ないないないって」言って、そういう業界だったんですね。それで埃だらけ油だらけですね何とも思わない、私はとんでもないと。これはですね、いくら油を使う仕事であってもきれいに出来るはずだという自分に信じてきれいにしてきましたですね。

でまあそういう風ですから、態度も言葉使いもですね、もう礼儀も何もあったものではないという、そういうですね、商道德もない。たとえば雪が降るとタイヤチェーンをすぐ 10 倍・20 倍にするというですね。もう雪が降ってきた、ああすぐタイヤチェーン 10 倍ですね。まあそういう業界だったわけです。で私はそれはとんでもないだろうと、まず業界の悪しき習慣を変えて、それから社員達のもですねこの気持ちも穏やかな、普通の心を持つそういう人間にしたいという風に思ったわけですね。まあそこで掃除を取り入れてやったんですけども、随分長い間、これが理解されない。もう理解するどころか反対の方にですね、私が掃除してある側から汚してくというですね、そういう風だったんです。それでも私はやり続けたことによって、さっきご覧にいられた様に私が掃除している横で平気で用足しをしている様な社員がしなくなったんですね。言葉使いも態度も何も変わってきてですね...という風になってきて、で一番先に表れたのは交通事故ですよ。もう以前はですね、よく車をぶつけた、どうしたというですね。それがですね、本当にもう見事にすぐなくなりましたね。車をきれいにして社屋もきれいにしてですね、態度も改めてですね、電話のとり方も何もそういうことに気をつけていったことによって、そういうことがなくなってきました。それからお客様とのですね、この取引引きにおいても自信を持つ様になりましたね。どのくらい自信を持ったか？私は昭和 44 年からまあ具体的に名前挙げますと、『イトーヨーカードー』、『ダイエー』ですね、その他スーパーマーケットに取引をしてですね昭和 51 年には売上の 60% をですね、占める程に...58. 何%も占める様になってました。しかし私はこういう人達と商売をすると...仕事をしてると、社員が悪くなるとですね、いうことを、もうひしひしと感じて思い切って会社が潰れるかも知れないという危険性をですね...危険性どころか、もう間違いなく誰が見ても潰れるというですね、そういう状況下で私は決断をして、その人達のスーパーマーケットとの取引は一斉に止めたんですよ。

それはもう随分うちの会社が潰れるという評判がですね方々で立ちました。でそのために

メーカーさんが商品を入れてくれない、銀行はお金貸してくれないですね、お金は返せって言われるもう散々な目に会いました。でも私はとうとうそれをやり通した。だから今日こうして会社があるんです。その時に止めなかった会社はみんな潰れちゃって、うちより遥かに歴史が古くて立派な会社だった会社まで潰れてですね、みんな潰されちゃったんですよ。であらこれは掃除をしてきたことによって、確固たる信念を持つことが出来たんですね。私も後へ引かないというですね、まあそういう信念を持つことが出来たんですね。これは数字や何かに表せないことですが、今日会社がこうして存在してるということですねことを1つ挙げて、掃除を徹底してやってきて良かったと私は思っております。よろしいですか。

(質問者・A) はい。ありがとうございました。

(進行役) ありがとうございました。では続きございますか？

(鍵山) はい。あ、どうぞ、もう狭いですから、お座りなっ

(質問者・B) Bと申します。本日は本当に素晴らしい話ありがとうございました。高等学校の教員をこれで3年と半年ぐらいやらせてもらっているんですけども、先生の書かれた本にもものすごい影響を受けておまして、教員になった時から掃除を一生懸命やっています。「掃除を学ぶ会」とかには入っていないんですけども、自己流やってるんですが、掃除をクラスの担任をしておまして自分の持ち場とかを一生懸命やることによって、私が預かっている生徒が「このおっさんは自分でやってくれるから、俺らはしなくて良い」という風な流れになってきまして。もちろん僕についてくる子達もいるんですけども、ちょっとついて来ない達はすぐさぼったり。今度はまあ、それをこう呼びに行ったりしてるところ、自分がまたこう掃除が出来なくなったりという形でジレンマをすごい感じております。2箇所掃除の担当する場所があったりすると、こっこのトイレの掃除を見ていると教室が、じゃあ掃除してる子が2人しかいなかったりとか。体がこういくつもあれば良いなと思いつながらいるんですが、それでも一生懸命やることによって分かってくれるんじゃないかと思ってやってるんですけども、まあ残念ながら3年間という限られた中で正直言って、子供を預かっている3年間という中で、効率良く...効率という言葉はちょっと良くないんですけども、自分がどの様に掃除を見せれば...後姿で見せれば、子供達がついてくるのかなと一生懸命悩んでおります。もしその辺でもちろん先生の掃除してらっしゃる姿はビデオでしか見たことがないんですけども、ヒントがあれば教えていただきたいと思ひまして、どうぞよろしくお願ひいたします。

(鍵山) 続ける以外ないんですね。しかもそこに打算があったりですね、その思惑があ

るとこれはいくらやってもやってもかえって 意味がないですね。私はもうですね、望んでも皆がやってくれないということは分かってましたからですね、だからもうとにかく自分一人で出来ることをやろうということで、もうひたすらそれに打ち込んでやってきたんです。まあそうしたら 10年かかりましたよね。少しずつやり始めるのにですね。もう 10年かかって、まあ全部ではありませんけども社員の多くがやるようになりましてし、もう 10年経ったら外から、うちのやり方を教えて欲しいとって来られるようになって、それが基になってですね、今日本中と海外では一番遠いのはブラジルですね、来年の9月 22日から私はまた 4回目ですね、第 10回全国大会...あ、「世界大会」というのがもう予定されてましたんで、これで 4回ですよ。でしかも行く時 24時間、帰る時は 28時間ぐらいかかります、飛行機のスピードが落ちますからね。でしかも向こうですね、ホテルに 3泊しても 4日目にはもう飛行機に乗っている、帰りのですね、そのくらい忙しい旅ですね。私の様な歳になるとですね、あの狭いですね、このエコノミーの椅子...席で座ってずうっと行くというのは本当にもうへとへとになりますから。それでも私のこのですね、行くことによって、それがまたブラジルですね広まっていけば良いというそういう考えですね。ですから自分のですね、影響が今すぐ効果が表れるなくても、やっていることに間違いはない。他人が認めても、認めてくれたからといって私のやっていることの価値が上がるわけではない。逆に他人が認めないからといって、私のやっていることの価値が低くなるわけではないですね。ところが得てして人はですね、他人が認めてくれると自分のやっていることの価値が上がった様な気がするんですね。変わらないです。逆に他人がけなしてもですね私のやっていることの価値は下がらないですね。でそのことをですね、幕末の学者の佐藤一斎という人がこういう言葉で言い表している。「当今の気をけなされたり、褒められたりは恐るるに足らず」と言う。そんな事を恐れる必要はない。後世、私があのに逝った後ですね、鍵山のやってきたことはとんでもない事だと言われるか、良い事やったなあですね、後世の浮世は恐るべしと言って、それは心配しなさいという意味で。ということを残しておりますね。ですからお名前何とおっしゃいました？

(質問者・B) Bです。

(鍵山) Bさんですね。はい。ですね、今B先生がですね、やっていることは生徒が認めようが認めまいが、また同僚がああつまらないことやってるなあと言ったってそんなことは1つも心配することはないんですね。やがて必ず後世...後になってですね、今やっていらっしゃることはですね、他人に分かってもらえるという風に私は思いますね。現に私はですね、他人に嘲笑されて馬鹿にされてですね、そんなことしかできないのかという風に言われながらやってきてですね、今はですね私は学歴も知識も技能も才能も何もありませんよ。それでもですね、日本中からですね、来てくれっていうんですね。こんな歳になってですね、本当に私は1月1日から今日まで1日も休みなしですからね。もうそのぐらい

ですね、私はうれしい有難い話だと思うんですね。普通私の同級生なんかも皆犬の散歩ぐらいしてるぐらいですよ。犬の散歩するんだったらごみ拾った方が良いと思いますけども。ということでくどくど言いましたけど、とにかく他人の評価、或いはその結果がどうであるかということに気にせずやるということがとても大事です、私の人生はどういう人生か...他人が全然価値を認めないことを私は一生懸命やってきた。他人がやりたがること、例えばトイレ掃除がとてもおもしろい良い事で皆がやりたがるんだったら、私はやらなかったですね。誰もやりたがらない、皆が嫌うから私はですね、やってきたんです。で意義があったんです。皆のやりたがることをやったってしょうがないですね。違う事やりましょう。ぜひそういう考えですね。それで私はね、あなたに1つお勧めします。あの教室のね、入口のドアをね1週間に1度は外してあのレールをいつもピカピカにですね、磨いてください。それからもう1つ。月に1回で良いからですね、誰もいないですね、まだ生徒が来ない朝早く行って、教室行ってですね、それで誰もいない教室で出席をとってみてください。どういうことが起こるか。不思議に一人一人の個性が見えてきますよ。いる時よりですね、皆がいる時にそういう出席をとるより、いない時に出席をとったらですね、不思議なほど一人一人の個性がよく分かってきます。あの私が知っているこの青森の先生でですね、夜ですね、真っ暗な時に誰もいない教室へ行って、その真っ暗な中で出席をとる先生がいるんですよ。何とですね、顔を見てる時よりですね一人一人のですね、個性がよく分かるっておっしゃってましたね。ですから教室のレールをきれいにすることですね、それからこの始業のベルがなった時にはもう教室のですね、入口に立っているというですね。よく先生方の多くはですね、始業のベルが鳴ってから職員室を出るという方が多いですね。それはダメです。始業のベルが鳴っている時にはもう既にですね、教室の入口に立っているというですね、そういう風に。その3つのことをですね、ぜひ実行してください。はい、よろしく。

(質問者・B) 本当にありがとうございました。あの心の中に正直言うと打算があったのかなという風に今本当によく分かりました。他人に認めてもらいたいという気持ちがあったというのを本当に今よく分かりました。おっしゃられたことを本当に実践していきたいと思います。ありがとうございました。

(進行役) はい、ありがとうございます。現場でのご苦労が本当よく分かりますね。あせらず・慌てず・諦めずということでこれからも頑張ってください。はい、お続きございますか？

そうしましたらCさんいらっしゃいますでしょうか？よろしいですか、ご質問の方を予めいただいているんですが、それご紹介してもよろしいでしょうか？よろしいでしょうか？はい。そうしましたら、同じ教育ということでご苦労してらっしゃるCさんからのご質問をいただいていたので、ご紹介したいと思います。

「障害児学校の教員です。親子関係は健常児と比べてはるかに強いものがあり、障害が重ければ重いほど、症状として現れます。親離れ、子離れのタイミングが難しいところです。成人の親子としての関係作りにも課題が大きく、教員として学校として役割等にアドバイスをいただけないでしょうか。」

(鍵山) はい、まあ私は専門的な知識はないんですね、専門家の様なお答えは出来ないんですけども、うちの会社にもですね、知的障害の青年が大勢いるんですね。で随分差があります、学習効果のある青年もいればですが全く学習効果がなくてですね、まあ出来れば本当はいて欲しくないですね、手はかかるばかりでですね、その青年がいるために一人がですね、健常者が手がかかっちゃうということもありますね、できれば避けたい人も何人もいますね。でも会社というのはそういうものを避けては通れない。そういう人達もよそでは勤まらなくても、うちの会社だから引き受けることができるということなので引き受けをしてるんですね。相当差があります。でも私はね、そういう人達と私とその職場へ行くと一緒にやるんですよ。共同作業ですね。一緒にですね、本当にこの手を尽くしてですね、やって見せてですね、山本五十六ではないんですけども、やって見せてはさせる。やって見せてはさせる。それで褒めるというですね、もうこの繰り返しでやってきましたね。でそうしますと、もう今は忙しいんで1つの職場に私が年に何度も行くことはできないんですけど、年に1回か2回行っただけですね、もう遠くの方から私を見ると手をひろげてですね、近づいて来て私に抱きついてですね、その頭こすり付けて来るなんている、もういるわけですね。やっぱり何といたって共に動く協働ということがですね、最高の教育であると思いますね。残念ながら親離れはですね、やっぱりしにくいですよ。いってみれば幼児性というものが常にいつも付きまとっているわけですから、まあどうしても知能に障害があると、幼児性というのがなかなか完全に取り去ることができないんですね。ですからこれは相当な時間がかかると私は思います。でも今ですね、うちの会社にいる人は最初はですね、親が会社まで連れて来てたんですね。それがあある時期からバス停まで送って来る、今度はもう今は皆、家からですね全員家から一人で、ちゃんとバスや電車を乗り継いでうちへ来てます。そういう風にこちらが手間をかけて時間を惜しまなければですね、必ずその自分が望んでいく方向に行くという。ただそれが健常者の数倍どころか数十倍も数百倍も時間と手間がかかるということを感じてですね、いかれることではないかと思えますね。去年ですね、私が千葉県の土気という所にあるそういう施設に行って、そういう人達に話をしてくれって言われたんですよ。困りましたね。これはですね、どういう話をしたらですね分かってくれるかなあと思って、まあその昔ですね、保育園で話を...保育園児に話をしたことを思い出してやったんですね。まずですね「山より広いものは何？」っていうんですね。「海」って言いますよね。大したもんですよ。「海より広いものは？」って言うと、「空」って言いますよね。よく分かるんですね。「じゃあ空より広いものは？」って言うとね、そっから分かんなくなるんですよ。私が一人一人、「はい、

あなたのこの心ですね、空より広い」って言うんですね、それがやっぱりね...分かり方は別ですけども分かるんですね。それから食べるもの話ですね、海のものね、山のものですね。「朝は海のものは何食べた？」って言うと、「海の中は食べなかった」って言うんですね。「山の中は」って言うと、「大根だとかキャベツ」だとかって、ちゃんとそういう風にですね、その一番原点になる所から話を持っていくとだんだんにですね...その普通だったらいきなり言ったら理解できないことが、だんだん下の方から持ち上げていくと、理解度が高まってくということをおはですね、うちの社員を通してですね経験しています。ですからこの位という、更に一段二段低い所からいつもですね、いつも低い所から低い所から、指導をしていていただきたいと思えますね。はい、よろしくお願ひ。うちの社員で一人ですね、今一人じゃない、前に社員旅行の時北海道へですね、一緒に連れて行った、私は行かなかったですけども。そしたらその、知能障害の青年がですね、札幌の市場で親にですね、贈り物をするった時にですね、その市場の人が、感動しちゃってですね...一目見て分かりますよね、これが親にお土産を送るのかっていうんで、感動してですね、ものすごいまけてくれたってですね、私も一緒にまけてもらいたいくらいです。まあそういうこともありました。

ぜひ低いレベルから繰り返すということをお薦めいたします。

(進行役) よろしいですか。はい。ありがとうございます。それでは続き、どんな小さい事でもよろしいですので、どうぞお手を挙げておっしゃってください。

はい、赤いジャケットの方。

(鍵山) ちょっと待ってください。これだけ書いときますね。さっき佐藤一斉という人の話をしましたけども、この人の残した本が『言志四録』これなぜ「四録」っていうかという4つの本を集めてあるからですね。『言志録』、『言志後録』、『言志晩録』、『言志耄録』というですね、4つの本を集めて、その中から抜粋して作ったのが言志四録という本です。すばらしい教えがたくさん入っています。はい、次へお願ひします。

(質問者・D) Dと言います。今日はありがとうございます。先生が掃除をずっと続けられていて、不思議な出来事とか奇跡的な出来事がもしありましたら教えてください。

(鍵山) はい、奇跡的な事はたくさんありましたよね。まず今の最近の事でいえば、3年半前にですね、目黒区青葉台という所に引越しをしました。これは長年ですね、東急電鉄が空き地で持ってましてね、いずれ自分達で使うつもりで空けて、空き地で持ってた。だからその隣接するマンションは目の前に空き地ですから、見晴らしが良かったわけですね。1200何十坪もありますから、そこが空き地だということはものすごく良いわけです。特にその目黒川という川が流れてまして、その両岸はね、東京でも有名な桜の名所なんで

すね。そしてその南側はですね...じゃない北側は代官山、松濤とってですね、東京でも有数な高級住宅街なんですね。緑の多い公園が2つも繋がっているというですね、真に景観の良い所にマンションが建っている。その目の前にうちがビルを建てるわけですから、もう反対されてですね、「このマンションは景観が良かったから来たんで」という風に、まあいわゆる景観条件といいですかね。しかし、うちも何十億円ていうお金を投じて買った土地をですね、駐車場で使ってるわけにはいきませんので、建築基準法よりはるかに縮めてですね、本当はもっと大きいビルが建つのに小さく縮めて建っている、それでも近所の人とはうまくいかなかったんですね。ことごとく難な注文つけられて、マンションの前は公道なのに、8時前はここ通るなどかですね、自分の所へ...マンションへ来た車まで「またここへ来た」とっていってですね、自分のとこへ来てる車なのにですね、うちへ文句言ってくるってような...そういうことだった。ところが、うちの会社に移る前から掃除をして、移ってから特に徹底した掃除をしてですね、3年半前ですね...移って3ヶ月後に、マンションの管理人が私にですね、こう言いました。「今、上のマンションの住民が良い会社が出来て皆喜んでますよ」そういう風になるんですね。掃除はその組織を語る無言の表現であるっていうんですね。たとえば学校でですね、掃除をされるとその学校がどういいう学校であるかということが無言のうちに表現してるんですね。いちいちうちの学校はこういうことやってます、ボランティア活動してます、ごみ拾いしてます、なんて言わなくてですね、無言のうちに表現している。さらに掃除をしているその人の人柄を映す無形の鏡であるというんですね。ちょっと書いてみましょうか。

これは岡田宣法という人が残した言葉です。掃除はその組織ですね、学校でもいい、学校、会社、何でも良いです。学校を語る、ただし言葉ではない無言の表現である。掃除をしているその人の、人柄を映す今度は形のない、無形の鏡である。本当なんですね。掃除をやり続け、やっていると会社であれば、その会社がどんな会社であるかね、いちいちうちの会社はこういう会社ですよなんて言わなくても、ちゃんとですね、あの会社はですね、すばらしい会社だなあとこういう風に人は見てくれるんですね。やってる人の人柄までですね、ちゃんと見てくれる。もう今からすると...えっと去年、一昨年、その前でしたね。8月のお盆の最中に私が一人でやってたんですね。大体休みの日でも少なくとも5~6人はですね、掃除のためだけに会社に出て来て掃除一緒にしてくれるんですけど。ものすごい暑い、去年...あ一昨年ですね。8月16日一人私一人、炎天下でですね、やってたのをすぐ3軒ほど向こうのマンションから女性が出て来て、「いつもお世話になります。すみません」とって言ってですね、お礼言ってくれて。「これ上の人の命令でやってんですか？」って言って私に言ったんで。で「下の人は大変ですね」とってですね、同情されましたが。だから私も「うちの会社は上がうるさいんです」。まあそういうこともありました。この言葉はですね、本当にすばらしい言葉だと思います。これ信じてください。本当にこの通りなんですね。はい。

まだですね、いろんな事はあります、災難にも遭いました、たくさんね。本当にね、一生

涯かかっても返しきれないような債務を人に騙されて背負ったこともありますし、それは大変な目に何度も遭ってますね。でもそれでも乗り越えて来ることが出来たのは、そういう幸運にも恵まれているというですねことなんですね。さっきのVTRの...ちょっとまだ入ってますか？VTR。入ってたらその後ちょっと流してみてください。

..... VTRスタート.....

今これですね。これは球場の裏にですね、英国大使館のちょっと裏手の方にうちはこういうビルを持っているわけですけど、元々私のようなですね、自転車の行商上がりから手に入る様なそういう場所ではないです、これはですね。なかなかお金を出しても手に入らない、それも東京でも有数の場所なんですよ。で何でこんな所がですね、私の手に入ったか、それはただ掃除をしただけです。持ち主がですね、ただみたいに私にですね、これ買いなさいと言って。ああ、もうすごい場所ですよ、これは。すぐ隣はですね、ローマ法王のバチカンの大使館ですね。こっち側はですね、日本生命のですね持ち物でしてね、もうそれは東京でももうですね、最高級の場所なんです。そういうこともありましたね。よろしいですか。

(進行役) ありがとうございます。ええ1つのことをこう続けていらっしゃると、いろんな奇跡やら面白い事やらありまして、本当感動も味わえるんだなあっていうことが分かりますね。はい、続いて、もう残り時間も少なくなって来ましたので、ああ訊けば良かったという風に思われぬようにぜひお手を挙げてください。

(鍵山) あの時々ですね、終わってからトイレへ行くとトイレで横に並んだ人がちょっとさっき聞き漏らしたんでって。

(進行役) そうですね。

(鍵山) 途中で話かけられて、私がおしっこ漏らしちゃうなんて。

(質問者・E) すいません、Eと申します。大変厳しい時代で、職場の立場上、上司から部下のリストラを命じられたことがあります。

(鍵山) はい。

(質問者・E) 私は残念ながら、その様な命令を受けたことがなかったものですから、何とかその人を立ち直らせたいと思って6ヶ月頑張りました。命令を受けたのが4月1日で、10月ぐらいまで頑張りました。ところがうまくいかなくて、その内にリストラを命じられた職員がますます荒れる様になったものですから、思い余ってそのまましていると「君

は立場が危うくなる」と言いました。そしたらですね、それが逆に「Eが言ったことは真実かと」言って、その上司よりもさらに上の方に確認にその人が行ってしまって、逆に私は立場を失ったわけです、その段階で。漏らしてはいけないことを漏らしたわけです。実はその前に私は長男の教育で非常に失敗いたしまして、本人が行きたい進学校...いける成績がありましたけれど、中学時代に何か人生を踏み誤るのではないかと私が思って、厳しく譴責して中止させたわけです。そしたらその結果、子供は信じてやれなかったためにスポイルされてしまったんです、私の強い言葉で。でそれがあったもんですから、逆にその時に信じるということの重要性を信じてしたつもりが、逆に今は自分の立場を失う世界でさまよっているんですが、鍵山先生でしたらどのようにそれを解釈して明日に向かって歩んでいけばよろしいかご教示いただければと思います。

(鍵山) はい。それは私もね、今日までの間には、たくさんの誤解を受けたりですね、それからもういろんな目に遭ってますよ。でその時にですね、私は言い訳をしないというですね。言い訳っていうのはどういうものかっていうと、たとえば何か、全く鏡みたいな平らな水の上に石をぼんと投げたらそれが事件ですよ。波紋ができますよね。波紋を消そうとして手で押さえたら、その波紋を消そうとして手で押さえたらどうなりますか？また新たな波紋が起こりますよね。消そうとして次から次へと押していく度に波紋はどんどんどんどん広がっていくわけです。ですから私はね、苦しい本当はね、言いたいですね、本当のことを言いたい。これが本当だと言いたいことでもね、私は黙ってきたんですよ。やがてそれがね、後になると分かるんですね。それは子供だってね、そう長い間、私がですね、まあ要するに子供からすれば母親ですね。私の家内をですね、もう仕事の上でないがしろにしている...私はないがしろにしているのではない、会社を守るためにはですね、もうやむを得ずやったことですが、子供からすると自分の母親をお父さんはないがしろにしていると。あんな風にですね、人間扱いしてないという風に見たわけですし。でも私はそういうことに対していちいち言い訳はしないですね。言い訳をすればするほどこの波紋がですね、新たに広がるばかりですね。ですから黙ってそれをですね、ぐうっと自分に飲み込んでいくということですね、これが大事ですね。それからもう1つですね、人間はいつもですね、今の話の様に言うべきか言わないべきかとかと決断せられますよね、そういうこと多いですよ。管理職になるとね、そういうことばかりです、いつも。でそれはね、ちょうど2艘の船にですね、向きの違う船に足をかけてですね、乗ってる様なもんでしてね。AとBとですね。でこの船は動いて行きますから、これどっちが行かないとですね、落ちちゃいますね。じっとしててくれれば良いですけど、問題っていうのは動いていきますからね。方向が違う方に動いていくんです。だからまあたとえばじゃあBの方が良いと思って、Bに乗ったとしますか、でBがここへ行って、Aがここへ来たんですね。どうもAの方がよかったなあとですね、Aの船に乗りゃあよかった、どうしてB乗っちゃったんだらうっていうことがあります。でこれのことを「未練」っていうんです

よね。でこれが着いたゴールなんですね。ゴールが良くなかった。ゴールに着いてみたら良くなかったですね。こっち行っとけば良かったかもしれないというんですね。どうしてその俺はBなんか乗っちゃったんだろう、Aに乗るときゃあよかったっていつまでも言うことを「愚痴」というわけでした。ほとんどの人がですね、未練と愚痴で自分のエネルギーを失っていくんですね。私もたくさんいろんなことがあってですね、あんなことやらなきゃよかった、引き受けなければよかった、やりさえしなければですね、ああ人を助けようと思ったためにこんな目に遭ったっていういろいろあった。でもその度に私が未練と愚痴にですね、とらわれていたら私のエネルギーはそれで失ってくんです。私はすっぱりそれを捨ててですね、そしてそこからまた出直しをしていくという、そういうやり方をしてきたんですね。ですから今この会社で中間管理職の方がですね、一番大変なんですよ。上の人からですね、こうやれって言われる、下からは何でだと言われるんですね。それで上は自分は手を汚さずにですね、知らん顔してるわけですからですね、ちょうどあなたの全責任に下から思われるんですね。うえの方はもっと早くやれっていうしですね、という意味で日本のですね、会社の中間管理層っていうのは、本当にね今大変な目に遭っているんですね。でこれはね、あなた一人ではないんですね。でもその時にですね、起きる...問題が起きることはこれはしょうがないですね。避けようもない、その起きた問題に対して自分がですね、どうとられていくかですね。その理想通りのですね解決の仕方ってないでしょうですね。それができればその人も救って会社も良くなれば一番良いわけですけども、今の社会情勢ではそれも叶わないすると、やっぱり会社を良き残すためにはですね、やはり人に辞めてもらうこともあり得る話ですね。でそれをですね、もう上から言われてしょうがないなあという事ではなしに、今度は自らの責任において、会社を守るためにはというですね、本当に自分個人のエゴではないわけですから、まあそれをきちっと話をですねしていく以外に方法はないですよ。で後はどう思われても何しても言い訳をしない。それから愚痴と未練の世界に自分が囚れないというんですね、まあこれしか私は今お話をすることができない。私はそうして来ましたね。言い訳したいことは今でもあります。本当は言いたい、こうしたいですね、でこうだったと言いたいけども、それはやがてですね、将来時が真実をですね、明らかにする時はあるという風に私は思って、黙っているんですね。はい、よろしいでしょうか。

(質問者・E) どうも大変明快なご回答ありがとうございました。

(進行役) ありがとうございます。もう定刻の時間になってしまいましたが、よろしいですか？

よろしいですか。はい、先生よろしいですか？

(鍵山) はい。これで。

(進行役) はい。では、本日は長時間本当にありがとうございました。私共浦山学園はこういう教育機関という様な立場にありますので、こういう「親学フォーラム」の中で普通のテーマとして「親が変われば子が変わる」ということを先生がおっしゃるように継続してやっていきたいと思っております。こういう地域の方々と連携をしてやっていきたいと思っております。今日も先生には「心あるところに宝あり」ということで本当に心の大切さということをいただきまして、勇気づけられたと思います。次回は1年後、ほぼ1年後ということではちょっと長いんですけども、また1年後は皆さんにお会いできると思いますので、またお知り合いの方で「こういうフォーラムがあったよ」ということをお伝えいただいで、またお友達をお連れになって来年もご参加いただけたらと思っております。

今日は本当に長時間ありがとうございます。

こちらに冒頭の弁論大会のコピーを先生にいただきましたので、お帰りの際にご希望の方はお持ちいただけたらと思います。

では、鍵山先生本当に良いお話をありがとうございました。

(拍手)

終了